

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A全農ふくれん 営農総合課)

営農情報 2

大豆の乾燥害対策について

6月27日の梅雨明け以降、晴天が続いており極端に乾燥したほ場が認められます。また、今後も晴天が続く予報となっており乾燥による出芽不良や生育障害が心配されます。以下の対策を参考に、土壌の乾燥が進まないうちに播種が完了するよう作業を計画しましょう。

また、播種時期に応じて播種量を加減するとともに、土壌水分に応じた播種深度で適正播種に努めましょう。

播種時の乾燥対策

1) 播種前入水（未耕起ほ場に限る）

- ・麦作時の周囲溝や明きよが有効活用できるよう排水口に接続する。
- ・未耕起のほ場に入水し土壌が湿ったら直ちに落水する。
(入水時は暗きよは閉め、落水時は開ける)
- ・適度な土壌水分になったら速やかに耕起・播種する。
(播種後は、暗きよ栓を閉め水分を保持)



2) 播種のポイント

- ・播種時期に応じた播種量（株間、播種粒数の目安）

播種密度	播種期	条間 (cm)	×	株間 (cm)	播種量 (kg/10a)	播種数 (粒/m ²)
	7月上旬	70	×	20~25	3~4	11~14
	7月中旬	70	×	15~20	4~6	14~19
	7月下旬	70	×	10~15	6~8	19~28

- ・土壌の水分条件や播種後の天気予報に応じて、播種の深さ、鎮圧を調整する。

基準	土壌が乾いている場合(しばらく降雨がない天気予報)
3cm	5~6cm(やや深まき)+鎮圧(麦用の鎮圧ローラー活用)

以上